

# 旅客船のバリアフリー化の 推進に向けて

特定非営利活動法人DPI日本会議

バリアフリー部会長補佐

工藤登志子

# 車いすユーザーから見た旅客船の問題点

## 1. 船乗り場

- ・乗船場所はバリアフリー化されていても、下船場所がバリアフリー化されておらず、車いすでは乗船できない

## 2. 船内

- ・船内の一部しかバリアフリー化されていない

## 3. 乗船券の購入

- ・オンラインで障害者割引で購入できない（JR等は実施している）

## 4. 情報・問合せ等

- ・公式WEBサイトにバリアフリー情報（写真）が少ない。問合せ先が載っていない

# 東京都観光汽船 (TOKYO CRUISE) 水上バス 海舟

- ・乗船日：2026年6月5日
- ・ルート：浅草～お台場海浜公園



# 浅草の船乗り場



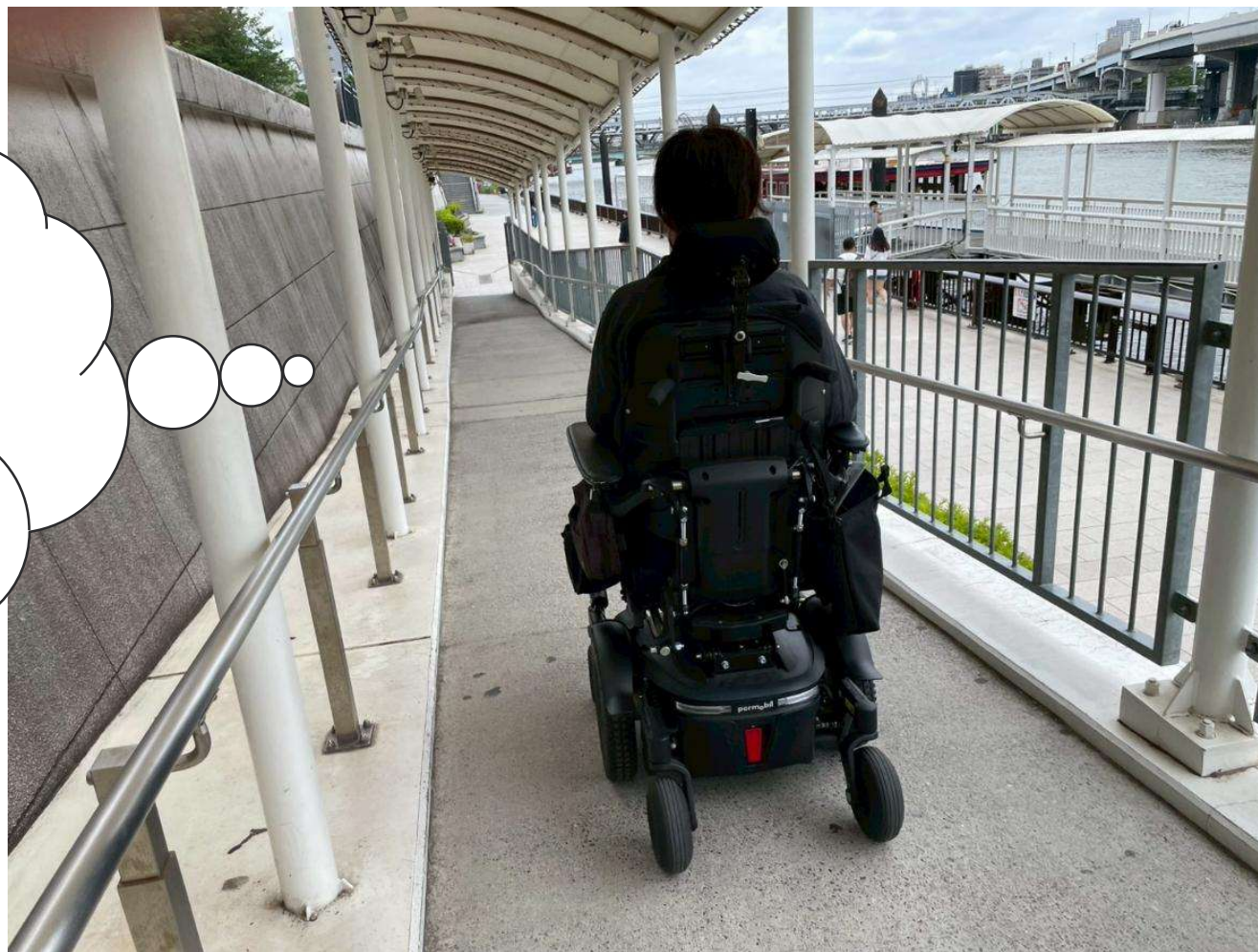
オンラインと自動券売機では  
障害者割引で購入できず、  
有人カウンターのみに購入可。  
当日購入では完売の可能性もある。



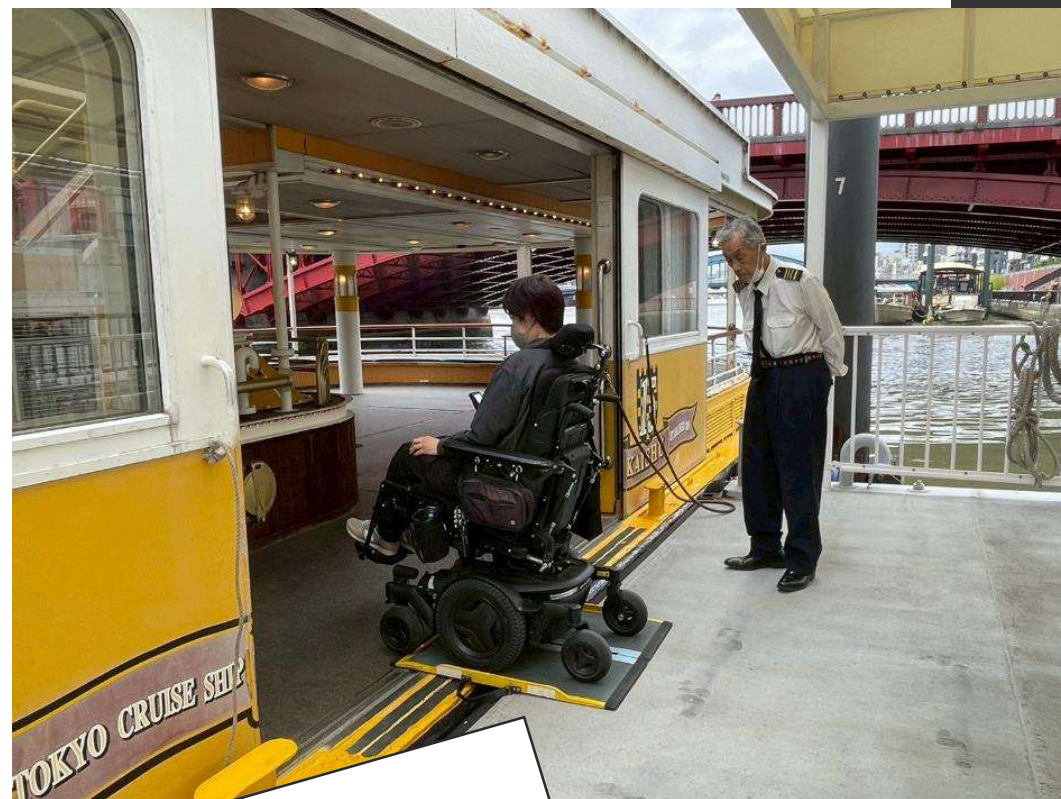
健常者は2階からの乗船、  
車いすユーザーは1階からと  
分けられ、一緒の経路で  
行けない。

# 浅草の船乗り場

団体から外れて一人だけ  
別ルート。。。  
わざわざ分ける必要が  
あるのかなあ？

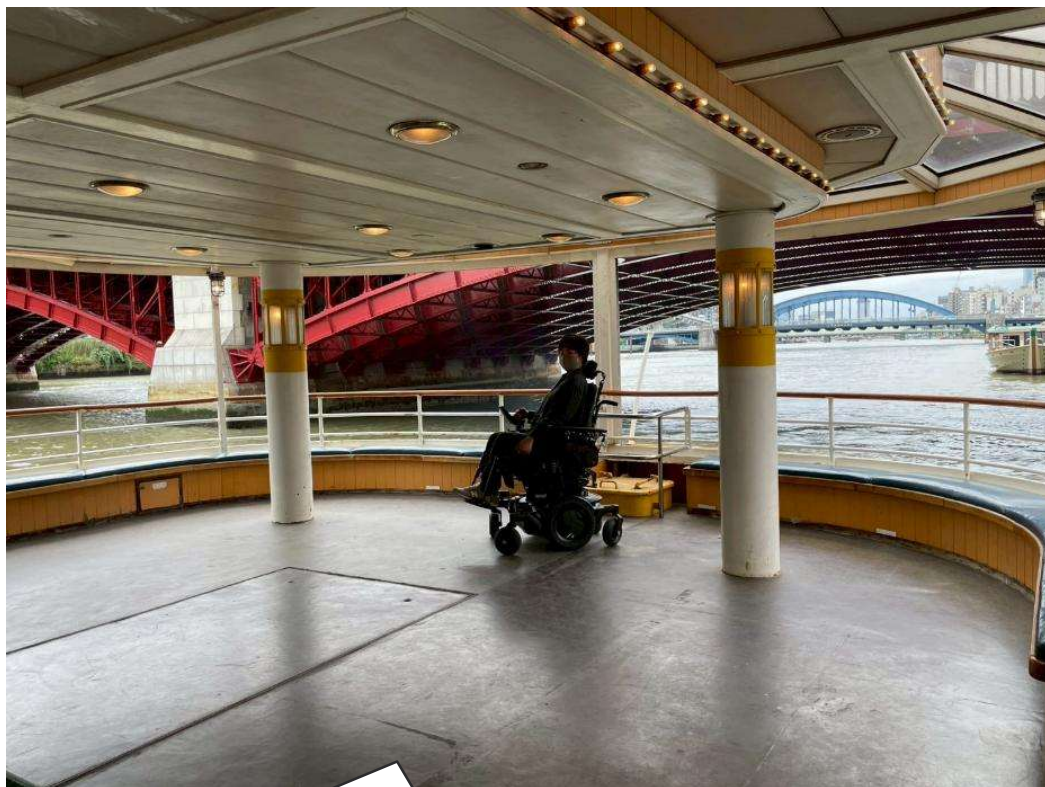


# 海舟に乗車！

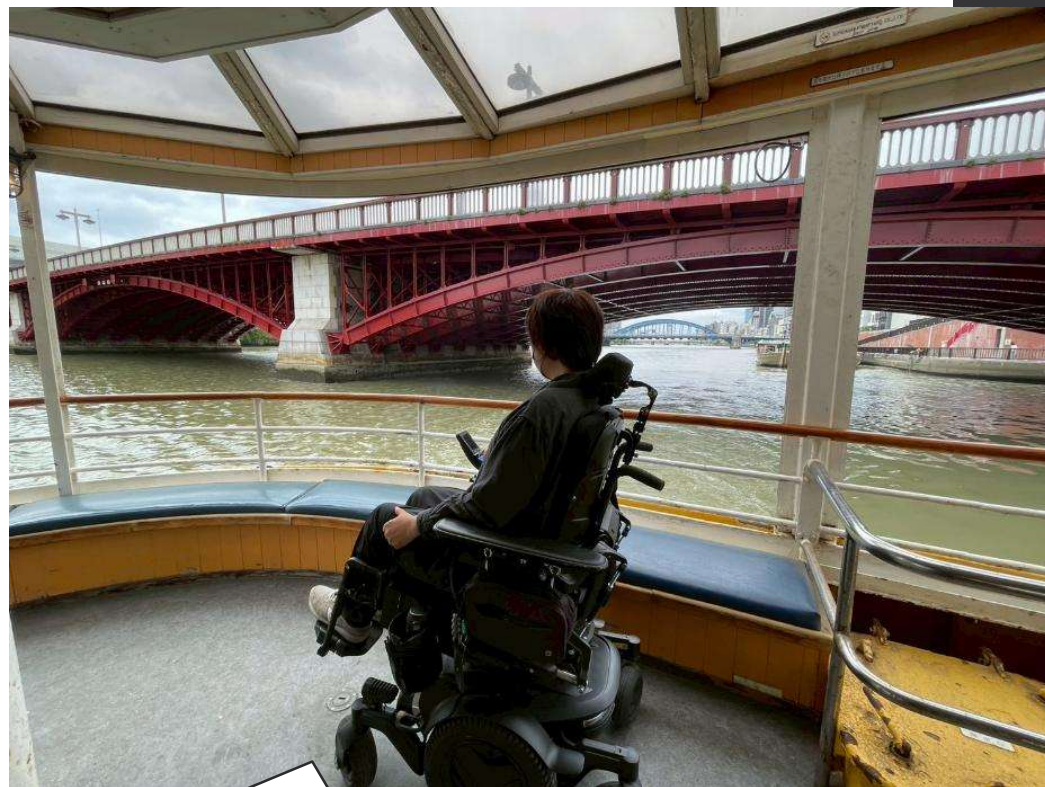


船の乗降はスロープ板を利用。  
陸と船の高低差が少なかったため、恐怖心なく乗ることができた。

# 海舟の船内の様子

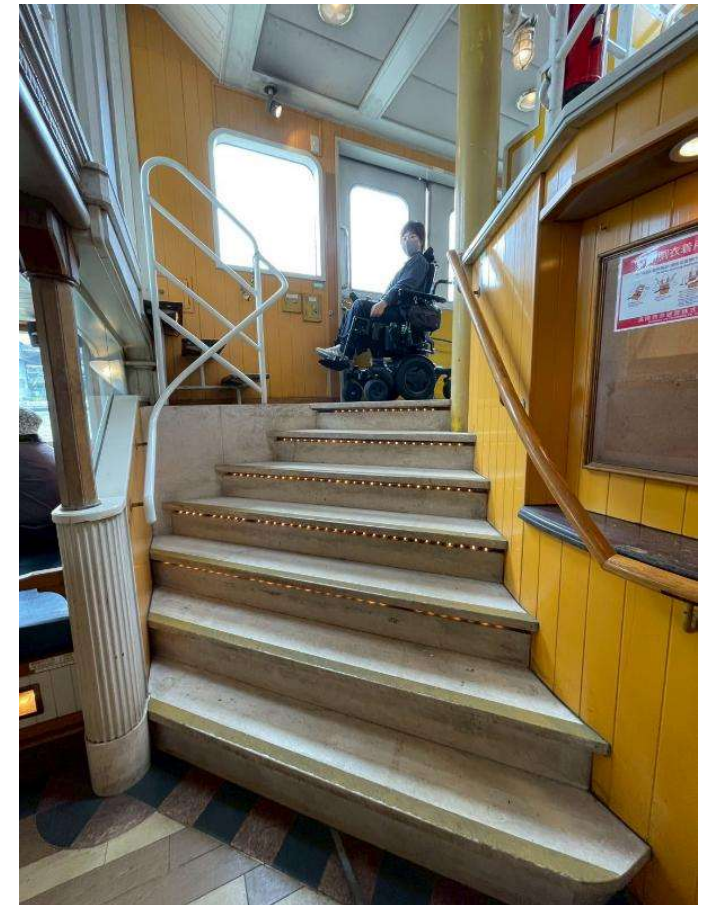


車いすユーザーの居場所は  
船後方部のフリースペースのみ。



進行方向の景色が全然見えない・・・

# 客席へ行くには階段のみ・・・



# 車いすスペースからの視界



前方の景色はほとんど見えず



進行方向

首を真横に向け続けるのが疲れる・・・

# 客席階のデッキからの視界

- 視界良好
- 風も感じられる
- みんなと同じ空間で楽しめる
- 中にいるかデッキに出るか、自分で自由に決められる

車いすではこの景色を見られな  
いのがとても残念



# 東京都観光汽船 (TOKYO CRUISE) 水上バス ホタルナ

- ・乗船日：2026年6月5日
- ・ルート：お台場海浜公園～日の出  
出栈橋



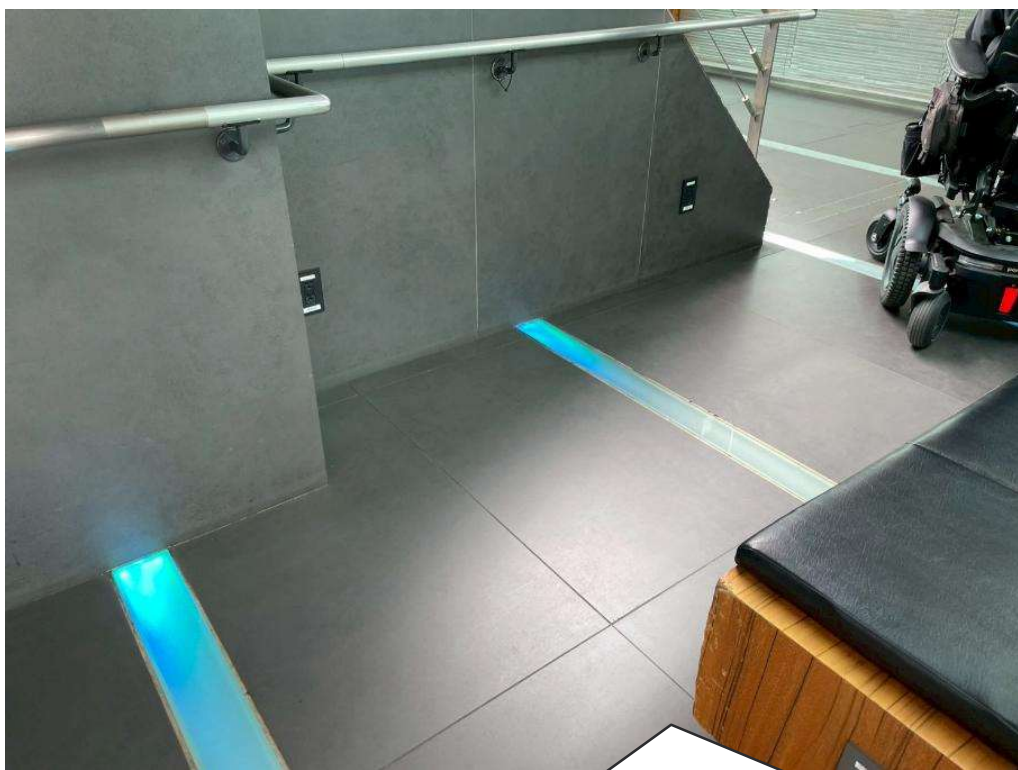
# お台場海浜公園の乗船場所



健常者と同ルートですが・・・  
乗り場前の坂が危険を感じるほどの急こう配！  
介助無しでは乗り降りできない。



# 車いすでいられる場所はわずかなフリースペースのみ

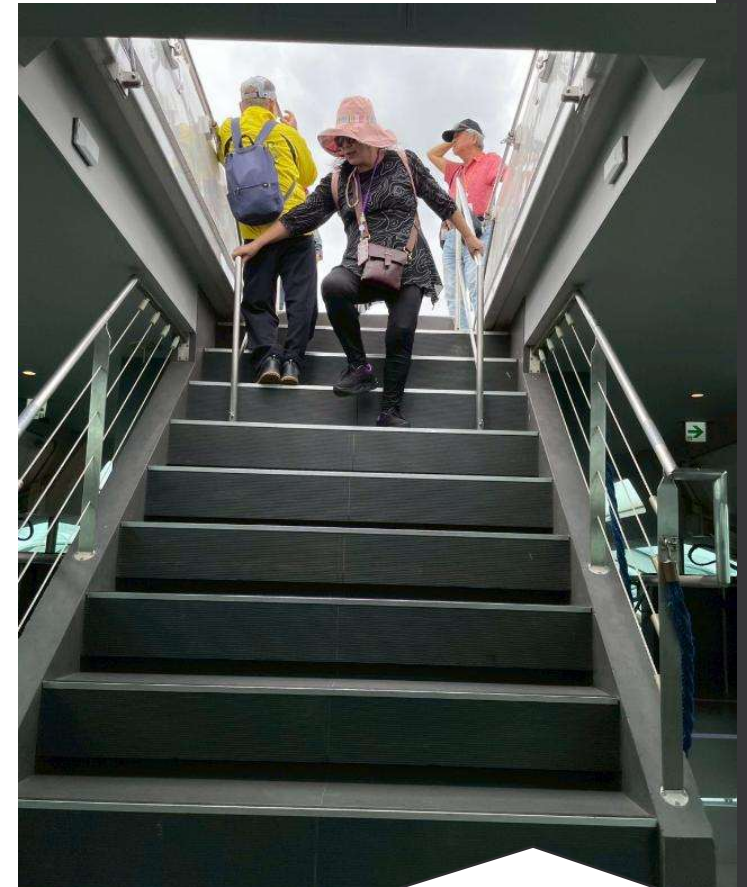


一階にはバーカウンター、腰掛け、階段があり  
動線が狭い

目線の位置に柱や壁があり景色はほとんど見えないが  
この場に留まることしかできず全然楽しくない。



# みんながいるところへ行けない・・・



屋上デッキへ行く階段は、車いすユーザーだけでなく  
健常者にとっても大変そう。

この景色を自分の目で見られないのは  
とても悲しい



# シンフォニー東京ベイクルーズ モデルナ

- ・乗船日：2026年6月5日
- ・ルート：アフタヌーンクルーズ（お台場周遊）



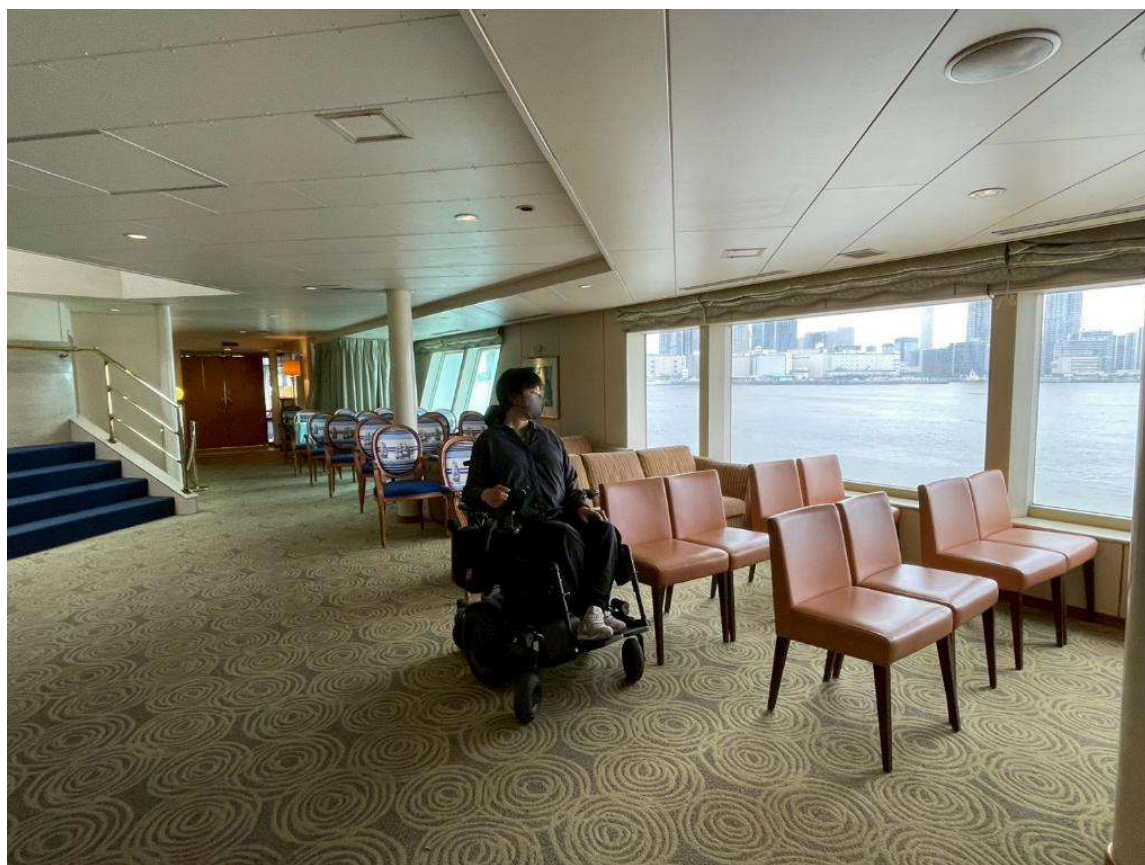
# モデルナに乗船



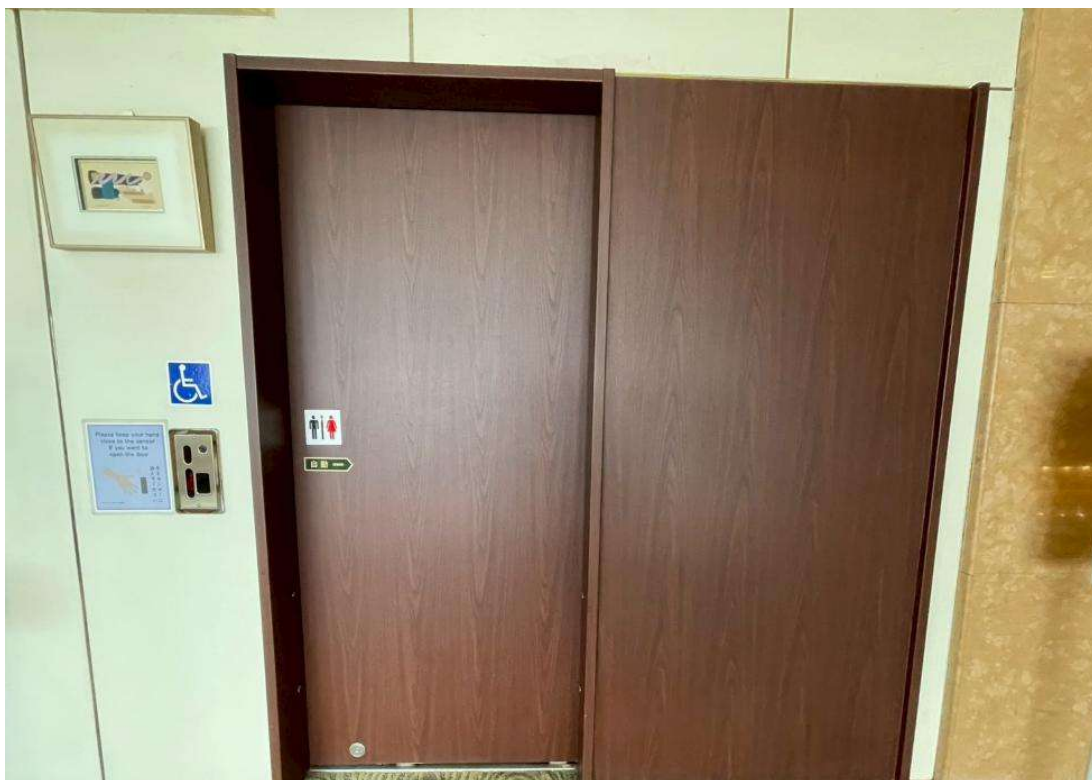
乗務員は歓迎してくれましたが・・・

- エレベーターは業務用のみ
- 利用するたびに乗務員の許可が必要
- 展望フロアは3階だが、レストランや車いす用トイレは2階のみ
- 乗務員の呼び出しベルは2階のフロントにしかない  
⇒3階から2階へエレベーターを使って降りたくても乗務員を呼べない！

# 3階より上の階は階段でしか行けない



# 車いす用トイレ



個室が狭く、電動車いすではドアを閉められない。  
介助者が入るスペースもない。  
室内の開閉ボタンの位置も車いすの動線が考えられていない。



# 車いすでは最も良い景色が見れない



# 乗船した感想

- 海舟、ホタルナ、モデルナも電動車いすで乗ることはできた。しかしどの船も楽しむことはできなかった。
  - ⇒「乗れさえすれば良い」のではなく、「誰もが同じように楽しめる」という発想のもとでの設計が必要
- 限られたスペースに留まることしかできず、荷物として運ばれている感覚だった。
  - ⇒障害者も乗客に含まれる公共交通機関であるという認識が必要
- 車いすスペースの視界、車いすトイレの広さや配置等、車いすユーザーのために用意された設備でも当事者にとっては使い勝手が悪かった。
  - ⇒当事者の意見を反映する仕組みが必要
- 乗船した船や船乗り場それぞれで仕様が異なり、状況によっては利用できないと感じた。
  - ⇒時代に即したガイドラインや管轄を超えた連携が必要

# バリアフリー基準の見直しが必要

## 1. 船全体をバリアフリー化する

ホテルナのように一部しかバリアフリー化されていなくても、現在の基準を満たしたことになる。船全体をバリアフリー化する基準が必要。

## 2. デッキにも行けるようにリフトを付ける

すでにエコモ財団が助成し船舶のリフトは導入されている（「いりかじ」石垣港～西表島上原港）。

## 3. 車いすからの視界の確保

窓からの景色を楽しめるように、車いすからの視界を確保する。

# 今後の旅客船に求めること

- **バリアフリー基準やガイドラインの見直し**

電動車いすの大型化、障害者の行動範囲の拡大等、障害者を取りまく状況は日々進化している。基準やガイドラインも時代の流れに合わせてアップデートをして欲しい。

- **障害の有無によって分けられない設計**

健常者が行ける場所は全て車いすでも行けるようにして欲しい。

- **設計段階からの当事者参画**

使い勝手の悪いバリアフリー設備や新たなバリアを生み出さないために、設計段階から多様な当事者の声を拾い上げる仕組みを作って欲しい。

- **新技術の積極的な検討・導入**

段差解消や上下移動等、新技術を積極的に開拓して世界に誇れる先進事例を積み上げて欲しい。